

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500016		
法人名	有限会社 白ゆり		
事業所名	グループホーム白ゆり		
所在地	大分県佐伯市大字木立字大野東区4885番地		
自己評価作成日	令和5年3月14日	評価結果市町村受理日	令和5年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivvosyoCd=4490500016-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和5年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と職員のかかわりが理念に基づき、明るく元気に寄り添うを基本に、個別援助(食生活・過ごし方・体調他)に努めてまいります。 ・職員は個々人の気持ちに寄り添い情報を共有しながら、介護に取り組んでいます。 ・季節感や行事食にあふれる手料理を提供しています。気分不良で食べたくない時は、好きなものや食べやすいお食事を提供します。 ・協力医と施設看護師と連携を密にとり、体調異常の早期発見に努めており、終末期の看取りも行えるように準備いたします。 ・施設周囲が四季折々の草花・木々・鳥の鳴き声などに恵まれ穏やかに過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の丁寧な話し方、優しい支援場面など、グループホームにふさわしく、やんわりとした雰囲気、そして認知症の方がストレスなく落ち着ける共用空間を整備しているため、利用者は居心地よくのびのびとした暮らしが出来ます。</p> <p>常に利用者の立場に立つ職員の姿が、利用者との関係を築いたと思われ、いろいろな制限のある中、家族との協力関係作りを力を入れ、利用者本人を支えていくことで、理念である利用者や家族の幸せを追求する事業所の取り組みと、職員のスキルアップとして自ら研修会に参加する姿勢が伺えます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに コロナ禍のため 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが コロナ禍のため 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍のため、地域の皆様と行事ができませんが、近所の方との時の挨拶や会話の中でのふれあいができている。運営推進会議には地域の方が参加していただいているので、施設の様子などを伝えている。	理念は事業所内に掲示し、職員会議等で実践を協議し、欠席者には会議録等で確認して頂くなど、管理者・職員全員で共有に取り組み、職員は理念に沿った支援に心掛け、安全・安心な生活支援への取り組みがなされています。	コロナ禍ではありますが、各行事・地域の催し等に参加が出来ず、利用者の重度化が懸念されます。コロナ禍に対応できる理念の見直し、支援内容の追加を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の協力が有り、草刈りなどを積極的に行っていただいている。一緒にお茶を飲みながら、施設の事や地域の話をしている。	コロナ禍ですが、施設周辺の清掃や近隣の人が植栽した花が咲く時期など、閉じこもりがちな利用者へ世代間交流・刺激を与えるなど、施設・利用者と共に元気づくりの取り組みがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、公的な行事はできないが、運営推進会議などで、介護の仕方などの話をすることが多く、民生委員さんからも地域の方に施設のことを話していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、偶数月に行っている。参加者や職員の意向に添った議題を検討し、行事や現状の報告を行う。参加者より、施設への意見を伺い、サービス向上に生かしている。	年6回、推進会議は毎回行われ、出席と書面を活用され、利用者の生活状況・課題などの報告を行い、委員からは施設への要望や地域行事など双方向での取り組みにより、施設と地域の情報共有が図られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃から高齢者福祉課(地域包括支援センター・介護保険係・介護認定係・生活保護係)と報告・連絡・相談を行いながら、利用者様の生活支援に協力をいただいている。	市の担当者と、日頃から運営に関する相談や報告・市主催の地域ケア会議や研修会に参加等で協力関係の取り組みができ、利用者の状況・状態の変化等にも相談・支援方法について協議がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1/M回の職員会議で拘束のないケアを目指し、意見交換を行っている。なるべく拘束を外せるようにスタッフ一同で検討している。	毎月開催する職員会議で、身体拘束と権利擁護について研修し拘束がなく、その人らしい生活が出来るよう支援に取り組み、外出しそうな状況を感じた時など、屋外と一緒に散歩するなど、認知症が進行しないよう対応がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	色々な角度から虐待行為が発生しないように、取り組んでいます。言葉などがつつい強くなったりしがちなので、気が付いた時は、注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため、職員会議(内部研修)でスタッフに周知をし、知識を深めていく努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の不安や疑問に、納得できるように十分説明し、同意を得て契約を交わしている。重要事項の変更時は、家族に変更内容を説明し、承認を得、署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族が、遠慮なく意見や要望を伝えられるような、雰囲気や環境作りをしている。直接言えない時は、意見箱を設置しているので、気楽に書けるようにしている。苦情は早めの解決に努めている。	家族の要望は電話連絡・意見箱等を介して把握し、職員は申し送り等で共有・要望があった時は迅速な対応に努めています。コロナ禍で面会自粛ですが、家族から利用者の状況を見たいという場合、個別的に対応がなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・個人面談・申し送り・ケア時などに、気軽に話せるような雰囲気作りをしている。その都度、いろいろな意見を言えるようにしている。	毎月の職員会議、随時において個別面談等を通し、管理者又は上司が意見を聞く機会を設け、利用者支援となる介護方法・業務上の気付きについても、職員提案を出しやすい環境の整備に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	急を要する時なども、勤務変更を速やかに行っており、有休や希望休もとりやすい。管理者は現場が多いため余裕がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、外部研修が少なく参加ができない。年間の研修内容を決め、職員会議で研修を行いスタッフのレベルアップに努めている。技術力の差もあるので、現場で直接に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同業者との交流の場は持てないが、今年は佐伯GH協議会を主に活発に交流を深めていこうと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族に面談を行い、生活歴や既往歴・趣味・食事・排泄などを伺いながら、施設で不安なく過ごせるように、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での楽しい様子(会話・行動他)などを伝え、ご家族が安心していただけるように努めている。看護師を配置していることで、異常時の早急な対応ができる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居事前のアセスメントを行い、心身状態や生活歴家族状況を把握した上で、必要なケアを行うように努めている。転倒を防ぐため、移動・移乗時の動きは観察を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勤務に就くときや終わった後などは、笑顔で挨拶を行う。蓆や筥の皮むき、洗濯ものたたみなど、生活の中で少しでもできる事を一緒にに行い、いい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍やADLの低下で、家族が連れ出せないことが多くはなっているが、病院受診などは家族と一緒に行き説明を受けることもある。日頃の様子などをご家族様にしっかりお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍やADLの低下で、思うように外出ができないが、特別な日などはご家族や親戚の方が面会にきている(100歳のお祝い)	コロナ禍で面会自粛の中、特別の日を設置するなど利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に取り組みられ、手紙・電話などを介し、家族・親族等馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに出てこられている方には、面白いテレビや音楽。お茶やおかしも提供しています。部屋にいる方は、ちょこちょこ様子を見に行っています。おしゃべりしながら、整理ダンスの片付けなどをする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	市外の施設に引っ越された方の面会や電話をかけたりと必要な方には、相談や支援を行っている。また、葬儀や初盆参りなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向の把握に努め、全職員で情報の共有を行っている。利用者にとって気持ちよく過ごせるように検討し、ご家族の協力も得ている。	利用者の家族・親戚など本人と関わり合いを持つ人の意見を聞き、本人の表情を見逃すことなく、利用者やゆっくり話す中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って安心して過ごすことが出来るよう対応がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族・担当ケアマネジャーに確認し、情報を得るように努めている。本人との常日頃のふれあいの中で、傾聴に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、心身状態や生活リズムの把握に努めている。状況・状態の変化には、スタッフ間で共有し、柔軟な対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から本人・家族・職員からの意見を取り入れ、介護計画書の作成を行っている。全職員の意見を反映させ、個別ケアを重視した計画書になっている。	家族・担当職員も参加し、本人本位の介護計画作成に取り組まれています。新規・更新計画作成は、個々の心身状況を見極め、モニタリングを開催し、計画の見直し等の取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画にそった援助を行い、変化や気づいたことを詳細に記録し、職員間で情報を共有しながら、介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が悪い時は受診 食欲のない方は好きなもの提供 家族の方からの差し入れも提供 臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、思うように地域行事の参加はできないが、運営推進会議や近所の方の庭の花を見たりと楽しんで生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診が継続できるように、職員同行で受診している。施設での様子を詳細に受診連絡票に記載し、受診結果は家族に報告している。	通院時に受診連絡票を持参し、かかりつけ医との関係を築きながら、本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を継続出来るよう支援されています。受診結果は、家族・職員に伝え共有されています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、心身共に気づいたことを看護師に報告する。看護師より連絡ノート・直接指導により、薬や処置の仕方などをスタッフで共有できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院に至るまでの経過をしっかりと報告し、治療がスムーズに行えるように添書を作成し口頭でも伝えている。また、入院期間中は、定期的に洗濯物などを取りに行ったり状態などを伺い、家族にもその都度報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に対する説明を行っている。状態状況・医療に関して、施設内でできる事やできない事などをお伝えした上で、家族の理解を得スタッフ一同で取り組むようにしている。	重度化や終末期に対する説明をされ、その時々の変化に応じて、本人・家族と話し合い医師・施設との連携を取り、方針が共有されています。看取りをされており、本人・家族の不安が軽減出来るよう寄り添い、心のケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所に掲示し、適切な対応や連絡網の活用ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に年2回、利用者と共に避難訓練を実施。消防署の指導で、消火器使用の訓練を行い、非常食などの備蓄をしている。区長・民生委員と協議し、地域避難先として指定されている。	定期的に避難訓練を行い、消防署員より消火器の使用方法について指導を受けています。施設が地域の避難場所になっているため、地域の方々との協力体制が築かれています。施設内での通報訓練を行い、定期的に備蓄の点検をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルや日頃の勉強会を踏まえた勉強会を行い、利用者個々に対する関わり方が、誇りやプライバシーを損ねず、人格を尊重しているかを十分に考慮している。	プライバシーや個人の尊厳を損なわないよう、日々の生活の中でその人らしい姿を大切に対応されています。日々の関わりの中で気になる点が見受けられたら、その都度注意しています。プライバシー保護や尊厳について学習会を行っています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、一人一人の思いを尊重し、自己決定できる雰囲気・関係づくりを行っている。できない事であっても否定せず、本人の気持ちは受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、レク活動は、体調や気分に合わせて過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍やADLの低下により、外出の機会が減ってはきていますが、お部屋で好きな服を着替えたり乳液を塗ったり、髪の毛を梳いたり身だしなみには随分気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽聞きながら穏やかな気持ちで食事を摂るようにしている。季節に応じた食材やメニューを準備しています。その日にむいた蒨などをすぐに調理し夕食に提供するなどの楽しみを心掛けている。	利用者の誕生日会などの際には、利用者の好みの物を外注し、季節の食材と共に提供され、行事食として楽しんでいます。時には食事の味付けなどの感想が聞かれ、和やかな時間となっています。ホットプレートを購入しおやつ作りの計画をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分や食事量・形態など、できる限り個人に合わせている。また、食材が重ならないようにメニューも考えて、調理をしている。声掛けや食事介助をしながら、バランスよく食事ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人に応じて、声掛けや直接うがいやブラッシングの支援も行っている。部分義歯や入れ歯の方には、外した後は洗浄剤などに浸け清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレで排泄できるように支援している。車いすでのトイレ介助、夜間厳しい方は、PTイレを利用して。排泄パターンをつかみトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや、誘導でトイレでの排泄が安全に出来るよう支援されています。夜間のパットの使用は、睡眠の妨げにならないよう工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の確認を行っている。お腹のマッサージや歩行・笑えるように促している。水分補給・食事では繊維の多い野菜・乳製品・果物なども摂れるようなメニューを考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングでの入浴は厳しいですが、日頃話せない事などをゆっくり話し穏やかに入浴できるように支援しています。	脱衣所に、新たにエアコンが設置され、入浴用の車椅子も用意され安全に入浴出来るよう配慮されています。日頃聞けない話も聞けリラックスして入浴出来る支援がなされています。足浴も毎日行い、皮膚状態の確認をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で気持ちよく眠れるように、寝具類はまめに洗い、布団も干している。室温や室温も定期的に確認し、調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬についての内容・効能・留意点服薬の仕方などをの説明・指導をこと細かく行っている。名前・日付・(朝・昼・夕)と明確に記載しており、飲み忘れや誤薬に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内での生活で、できる事はなるべくお願しているようにしている。カラオケやレク・おしゃべりなどを楽しんでいる。嗜好品ではお菓子・果物・飲み物などでも好きな物をお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍とADLの低下で、なかなか思うように外出することができないが、かかりつけの病院(皮膚科・眼科・整形他)には定期的な受診ができています。	コロナ禍や利用者の機能低下により、定期的な外出支援が難しい中、ホールやテラスから、近くの桜を見たり季節の花を楽しんだり、気分転換できるよう支援されています。天気の良い日には体調を見ながら、気分転換や五感刺激のために、近くに出かける計画を検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、外出や受診時に自分の意思で買い物を楽しみ、自分で支払うように支援している。また、金銭管理ができなくても、本人の希望でごく少額の金銭を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話をかけたり取次ぎなどを行っていない。年賀状のやり取りや送りものが届いたり嬉しい頼りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・温度の適切な管理を行い、気持ちよく過ごせるような配慮に心がけている。季節感がある飾り物や花を生けたりと和めるような環境を整えている。	ホールには大きなカレンダーがあり、毎朝日にちと曜日を利用者と声に出して確認するなど、時の見当識の配慮をされています。塗り絵や、笑顔の多い写真が壁面に飾られ、ホールには季節の花を生けるなど、共用の空間で居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロカにはソファを置き、いつでも座ってくつろげるようにしている。ホールでは、大きなテレビをゆっくり見ることができ、カラオケをして楽しむことができる。ロカを歩き、筋力低下を防ぐこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が慣れ親しんだ家具や写真などを飾っている。快適に過ごせるように、空調の整備や掃除などもまめに行っている。	居室の入口には、わかりやすい文字で氏名が書かれ居室を間違わない工夫がされています。居室内は思い出の写真や、慣れ親しんだ持ち物が置かれており、くつろぎ居心地良く過ごせる居室となるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、車イスやシルバーカーで安全に移動しやすいように、整理整頓を行っている。居室では本人に合った、センサーマット・介助パー・エアーマット・トイレ等を使用している。		